

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 19 年 8 月 16 日 (2007.8.16)

【公開番号】特開 2002-128545 (P2002-128545A)  
 【公開日】平成 14 年 5 月 9 日 (2002.5.9)  
 【出願番号】特願 2000-318103 (P2000-318103)  
 【国際特許分類】

**C 0 3 C 27/12 (2006.01)**  
**B 3 2 B 17/10 (2006.01)**  
**B 3 2 B 27/06 (2006.01)**  
**B 3 2 B 27/22 (2006.01)**  
**B 3 2 B 27/30 (2006.01)**  
**C 0 8 J 5/18 (2006.01)**  
**C 0 8 K 5/00 (2006.01)**  
**C 0 8 K 5/09 (2006.01)**  
**C 0 8 L 29/14 (2006.01)**

【F I】

C 0 3 C 27/12 D  
 B 3 2 B 17/10  
 B 3 2 B 27/06  
 B 3 2 B 27/22  
 B 3 2 B 27/30 Z  
 C 0 8 J 5/18 C E X  
 C 0 8 K 5/00  
 C 0 8 K 5/09  
 C 0 8 L 29/14

【手続補正書】  
 【提出日】平成 19 年 7 月 3 日 (2007.7.3)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】特許請求の範囲  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】可塑剤により可塑化されたポリビニルアセタール樹脂膜の積層体よりなる合わせガラス用中間膜であって、該積層体の最外層を除く少なくとも一層には、炭素数 2 ～ 18 のカルボン酸、炭素数 2 ～ 18 のヒドロキシカルボン酸、炭素数 2 ～ 18 のカルボン酸縮合物及び炭素数 2 ～ 18 のヒドロキシカルボン酸縮合物からなる群より選ばれる少なくとも 1 種以上を、可塑剤 100 重量部に対して 0.5 ～ 50 重量部含有するポリビニルアセタール樹脂膜が用いられてなることを特徴とする合わせガラス用中間膜。

【請求項 2】少なくとも一対のガラス板間に、請求項 1 に記載の合わせガラス用中間膜を介在させ、一体化させてなることを特徴とする合わせガラス。